

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

| | | | |
|------|------------------|----|-----|
| 所属 | 文学部 | 身分 | 准教授 |
| 氏名 | 前之園 望 | | |
| NAME | Nozomu MAENOSONO | | |

中央大学特定課題研究費による研究期間終了に伴い、中央大学学内研究費助成規程第15条に基づき、下記の通りご報告致します。

1. 研究課題

(和文) イノベーションの根本原理としてのシュルレアリスム

(英文) Surrealism as a fundamental principle of innovation

2. 研究期間

2022年度 ～ 2023年度

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文600字程度、英文50word程度）

(和文)

人文学の実用性を問われた際、人文学側からの主張は主に以下の二つに分類される。ひとつは〈長期的 スパンで人類全体に利する〉という回答、もうひとつは〈そもそも人文学に実用性を求めるべきではない〉という回答である。いずれの返答も真実ではあるが、人文学に関心のない人間の耳には届かない言葉である。人文学の〈正しさ〉を答える以外の返答の可能性はないのだろうか。こうした疑問を出発点として、本研究は、文学研究はいかにして自らの実学的側面を語るができるのか、という問いに対して具体的な解答を与えることを目標とした。

議論を具体的にするために、本研究ではフランス文学の研究対象であるシュルレアリスムの詩学と、経営学の研究対象であるイノベーションの発生プロセスとを比較し、両者の構造的類似を中心に分析を行うとともに、両者の類似点に付随する細部の相違点に着目することで、文学研究、経営学に補完的に活かせる要素を探った。さらに、持続可能な新しい社会における経済活動のあり方を考える際に、経営学とことばを共有した上で、文学研究の立場からどのような提案ができるかを検討した。

研究成果としては、当初の予想をはるかに超えて、文学研究と経営学の親和性が浮き彫りになった。ビジネスの領域で既成概念を打ち破るために行われる思考トレーニングの多くは、フランス近現代詩の研究を通して同様の効果を得られるものであり、またフランス文学研究分野が進むべき方向性も「持続的イノベーション」、「破壊的イノベーション」の概念を視野に入れることでより具体的な検討が可能となった。

(英文)

This study compares Surrealism's poetry in French literature with innovation processes in management studies, examining similarities and differences. It suggests shared elements and proposes ideas for a sustainable society in economic activities, bridging literary and management studies. The results reveal a strong connection between the two fields. For example, it suggests innovative business thinking through French poetry studies and future directions for French literary studies embracing concepts of "sustainable" and "disruptive" innovation.